

全日本マスターズで活躍した人たち

暦の上では小枯の季節の師走。1年の締めくくりの月だが、今年もさまざまなイベントで、それぞれのストーリーが生まれた。11月8日からフィリピンでアジア・マスターズ陸上が開かれ、日本勢が活躍した。同大会の様子は来月に先送りして、今月は先月号に続き全日本マスターズで活躍した人たちと、全日本マスターズ競歩の成績をお届けする。

写真提供/岩手マスターズ陸上競技連盟

女子1500m、3000m日本新の 中山淳子さん(65歳・愛知)

女子中距離のW65・1500mと3000mの2種目をいずれも日本新で制したのは中山淳子さん(65歳・愛知)だ。先にレースがあったのは3000m。このレース、中山さんの競う相手はなく、ただ1人、タイムに挑戦。11分53秒78でフィニッシュした。記録は日本記録の12分19秒75(2018年)を大きく上回った。

さらに翌日に火ぶたを切った1500mでも中山さんの健脚は冴えた。悠々とフィニッシュしたタイムは5分43秒33と、こちらもクラス別日本新だ。旧日本記録は5分49秒09で18年につくられた。中山さんは「私が走った2レースとも天候に恵まれ、風もなく走りやすかった」と。

だが、一息ついた後「実のところ、もう少し記録を縮めたかった。体調が万全だったら」と、ちょっぴり残念そう。中山さんの話では「7月の愛知マスターズ選手権のときに調子が良すぎて、その1週後に腰が痛くなった。その後遺症が長引いて」が万全な体調でなかった原因のようだ。

ことのついでに地元のマスターズ選手権で出した記録を聞いてみると「えっ!?!」と驚いた。7月2日の1日で800m、1500m、3000mを走って、3レースとも日本新記録(申請中)を誕生させたと言うのだ。

まず800mは2分45秒54、1500mが5分28秒25、また3000mでは11分48秒15という。このうち1500mと

3000mは全日本マスターズ山口大会で出した記録より上だ。800mのクラス別日本記録は2分48秒08で14年につくられたもの。実に9年ぶりの日本新である。

中山さんは「山口では『より良い記録を!』の気持ちだったんですよ。シーズンを終えた中山さん。「来年のシーズンに備え、トラックでなくロードで距離を踏み、持久力をつけたい」と話す。中山さんの24年度の活躍が楽しみだ。

三段跳の女王はW80・8m12 大日向暁子さん(73歳・長野)

W70・三段跳で注目された大日向暁子さん(73歳・長野)のベストは8m12(+0.4)だった。大日向さんといえば同クラスで8m98(-0.3)の世界記録を持つトリプル・ジャンパー。いわゆる世界の女王なのだ。

8m98を跳んだのは21年で71歳。「やはり歳を一つ取るたびに“トシ”を感じますね」と、8m12は「ワースト記録ですよ」と笑った。

思ったより記録が伸びなかったのは敬老の日に合わせて取材を、あるメディアから受けたときに跳び過ぎたのが響き、ヒザを痛めて練習不足に陥ったそう。

「11月の中旬頃には元の体に戻ったし、来年、いや再来年のW75クラス目指して頑張ります!」とにっこり。それには「どうしたら、もっと先まで跳べるんだろうのヒントを探り、故障しない体づくりを」と、先をにらんでいた。

宮田直美さん(59歳・茨城)は W55・100mで賞禄示す

8人中、真っ先にフィニッシュしたのは宮田直美さん(59歳・茨城)だった。13秒69(-0.7)がW55・100mのVタイム。2位は宮本百合さん(56歳・愛知)で13秒76。宮田さんは「きょうは宮本さんに勝たせてもらって」と、ホッとした表情。

というのは、このお二人、9月24日、福井県であった北陸マスターズ選手権でも対戦し、宮田さんは13秒60で宮本さんに敗れていた。山口決戦でお返ししたことで、ホッとしたのだ。宮田さんは60mと100mのW50、55クラスの日本記録保持者だ。

W55クラスの60mは8秒29(+1.7)、100mが13秒23(+1.4)で宮田さんが57歳で出したもの。宮田さんは「山口でのレースでは勝てましたが、体調がピリッとしないで。今年はすべてにいまひとつでした。次なるW60を目指して」と還暦を待ちわびている。「山口では13秒5ぐらいは出したかった」。

W80・砲丸投、円盤投は 嘉成俱子さん(82歳・兵庫)

女子投てき界で頑張り続けている嘉成俱子さん(82歳・兵庫)。山口大会ではW80・砲丸投が7m56(2kg)、円盤投が20m66(0.750kg)で2種目で1位。嘉成さんのW80でのベストは砲丸投8m86、円盤投23m31でいずれも日本記録だ。

これらの記録と比べると見劣りする

が、上記の記録は21年に80歳のときに出したものだ。嘉成さんは「やはり年々、体が思うように動かないし、きつさを感じます」と言いながら「砲丸は8m台、円盤ももう少しは投げたかった」。

嘉成さんの競技歴のうち、日大時代に今岡姓で砲丸投、円盤投で常にインカレの上位を占め、住友金属に在籍していた頃には、66（昭和41）年の第14回全日本実業団対抗の砲丸投で優勝している。

砲丸投はW60から65、70、75、80、円盤投の方はW65から80まで日本記録を持つ嘉成さん。「コロナから解放されたから、練習しなくては」と、やる気満々だ。

昔取ったきね柄のお二人 渡川孝子さん(80歳・徳島)と 奥村留美子さん(63歳・滋賀)

W75・走幅跳に3m64の日本記録を持つ渡川孝子さん（80歳・徳島）がW80クラスになって、100mと走幅跳に挑んだ。100mは18秒92（-0.5）、走幅跳の方は2m98（+0.4）の日本新だった。旧日本記録は2m94（2021年）で4cm上回った。

渡川さんは「しっかり練習できなかったからか、100mはゴールが遠かったし、走幅跳は3m20ぐらい跳びたかったのに。今日の記録は恥ぢかしい」と苦笑い。渡川さんは旧姓・林の光華短大時代、62年に初めて1分を切る59秒5の日本記録をつくっている。

◇

W60・800mは奥村留美子さん（63歳・滋賀）が3分58秒03の最下位の4位でゴールした。「勝つことよりも納得のいく走り」をモットーに参加を続けている。今まで全日本マスターズに連続何回参加したのだろうか。出場するたびに「最下位候補」だ。

だが旧姓・脇畑の水口東高（滋賀）のときには、800mで2、3年とインターハイ2連覇（77、78年）し、78年の日本選手権では高3で800mと、1500mは4分28秒3の高校新で2種目を制しているのだ。これからも連続

出場を夢見る奥村さんは、介護予防体操の指導者としても活躍中。

福本義永さん(50歳・京都) M50・走高跳1m90の日本新

バーの高さは1m90。クリアすればM50クラスの日本新だ。ゆったりと助走を起こした福本義永（よしひさ）さん（50歳・京都）が踏み切った。空中に舞った福本さんの体は、きれいな背面跳で越えた。3回目の試技だった。

試技はいきなりの1m90から。「調子がよかったから、これくらい（1m90）の高さはいける」という自信があった。春先に東大阪記録会で1m95を跳んでいるのだ。ただし、この時は49歳で、9月2日がくれば50歳という記録会の日付だった。

洛南高（京都）時代に2m10、福岡大で2m20をクリアしていた福本さんがマスターズへ入会したのは、40代になってから。マスターズの日本記録2m02を41歳の16年につくり、45歳のときに1m95の記録を。今後については「来年はスウェーデンである世界マスターズと、京都で予定されている全日本マスターズでともに優勝し、1m97いや2m00を、と思っています」。

M50クラスの日本記録1m87を8年ぶりに更新した福本さん。伴侶の幸さんもW45クラスで1m65を45歳の22年に越え、日本記録保持者だ。娘さんの光玖（みく）さんも今春、中1で1m35を完全に越えているという、まさに“高跳び一家”。これからの活躍が待ち遠しい。

2023全日本マスターズ競歩 5kmWでは4名が日本記録更新

2023全日本マスターズ競歩大会は10月1日、岩手・北上市で日本創設種目の35kmWをはじめ、20kmW、10kmW、5kmWが行われた。5kmWではM35の村上勇磨さん（37歳・東京）が24分57秒の日本新を出したほか、同種目と20kmWと合わせて5人がマスターズ日本新を樹立した。



5kmWで日本記録を更新した船越敬也さん、菊地寿さん、村上さん、割栢健太さん（左から）

松本初枝さんは昨年の女子20kmW・W80に続き、女子10kmW・W80で創設日本記録を樹立した

2023全日本マスターズ競歩 3位内入賞者

クラス	順位	記録	選手名(年齢・地区)
男子35kmW			
M25	1位	3時間41分15秒	○ 中川 岳士(28歳・東京)
M35	1位	4時間51分00秒	○ 林 宏明(39歳・山口)
M40	1位	3時間22分07秒	○ 植熊 敬史(41歳・新潟)
M50	1位	3時間57分45秒	○ 中川 裕一(52歳・三重)
M55	1位	4時間12分06秒	○ 大森 健輔(55歳・千葉)
	2位	5時間03分02秒	香川 新(58歳・栃木)
M60	1位	4時間32分21秒	○ 福葉 潤一(63歳・栃木)
	2位	4時間35分28秒	前田 克哉(60歳・東京)
M65	1位	5時間10分31秒	○ 谷貝 幹夫(66歳・茨城)
M70	1位	4時間44分22秒	○ 八重樫 悟(74歳・茨城)
	2位	4時間56分59秒	小松 司(70歳・青森)
男子20kmW			
M45	1位	2時間05分55秒 ※	辻本 始(45歳・奈良)
M60	1位	2時間42分21秒	吉岡 隆(64歳・埼玉)
M65	1位	2時間21分01秒	佐々 順一(67歳・三重)
M75	1位	2時間42分24秒	浦部 兼延(79歳・東京)
男子10kmW			
M35	1位	57分32秒	村上 勇磨(37歳・東京)
	2位	59分27秒	船越 敬也(38歳・岩手)
M45	1位	1時間19分48秒	齊藤 政行(49歳・茨城)
M55	1位	1時間13分52秒	塚越 晋也(56歳・群馬)
M60	1位	1時間08分38秒	上村 景史(61歳・新潟)
M65	1位	1時間16分04秒	椎名 誠(68歳・山形)
	2位	1時間16分56秒	田所 望(66歳・栃木)
M70	1位	1時間07分25秒	八巻 功(70歳・神奈川)
	2位	1時間19分35秒	神田 好(72歳・千葉)
	3位	1時間25分39秒	高橋 元一(72歳・岩手)
M75	1位	1時間09分16秒	久村 隆一(76歳・北海道)
	2位	1時間21分53秒	高澤 賢一(77歳・埼玉)
M80	1位	1時間23分48秒	肥後 雷男(82歳・福岡)
M85	1位	1時間39分53秒	来田 悦一(86歳・東京)
男子5kmW			
M35	1位	24分57秒 ※	村上 勇磨(37歳・東京)
	2位	27分18秒 ※	船越 敬也(38歳・岩手)
M40	1位	27分23秒 ※	割栢 健太(40歳・東京)
	2位	35分52秒	高木 靖幸(41歳・広島)
M45	1位	39分38秒	齊藤 政行(49歳・茨城)
M50	1位	42分59秒	千葉 康彦(54歳・岩手)
M55	1位	26分14秒 ※	菊地 寿(56歳・岩手)
	2位	32分31秒	佐田正二郎(55歳・福岡)
	3位	33分54秒	森本 文雄(57歳・和歌山)
M70	1位	40分34秒	山田 賢一(72歳・長野)
M75	1位	36分28秒	佐々木 隆(75歳・岩手)
M80	1位	38分17秒	肥後 雷男(82歳・福岡)
クラス 順位 記録 選手名(年齢・地区)			
女子35kmW			
W55	1位	4時間56分59秒	○ 佐藤奈緒美(58歳・北海道)
女子10kmW			
W80	1位	1時間17分07秒	○ 松本 初枝(81歳・千葉)
女子5kmW			
W30	1位	40分26秒	○ 鈴木 彩葉(31歳・千葉)
W70	1位	38分42秒	芳賀裕美子(70歳・青森)

(○は日本創設、※は日本新)